

22.2.1

佐倉市

# 教育センターだより Vol. 20

平成22年2月1日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043(486) 2400 <http://www.city.sakura.lg.jp/kyoikucenter/index.htm>

## 16年後の反省《「姿勢を示すこと」ができたのか》

所長 佐久間 保男

今年届いた年賀状の中に、16年前、佐倉市の学校に転任してきたときに出会った教え子からのものがありました。16年振りに目にした名前は、正直なところ直ぐには思い浮かばなかったのが事実ですが、しっかりと書かれた文字を追うごとに当時のことが不思議と脳裏を横切りました。

彼は、文章の中で某国立大学の大学院を昨年春に修了したというような記載があり、また、「16年前の大学院に行くという『目標』を果たせたので、報告させていただきました。」と、結んでいました。

彼は、自分で言ったことを持ち前の努力を積み重ねて成し遂げ、報告をくれたわけです。彼のこれから先の長い人生には、多種多様な困難が待ち受けていると思いますが、有言実行で解決していくことでしょう。

実は、この年賀状を読んだときに、教員という仕事を選んだことを大変うれしく思ったのと同時に、その仕事の難しさを感じたのも事実です。特に、教育という仕事は、様々な人と関わり合いながら行っていかなければ成立しないと言っても過言ではないでしょう。教職員はその仕事の特殊性から、児童生徒・保護者・地域の方々等、関わる人の数が非常に多く10年・20年と経験すれば、その数は数千に及ぶこともあるでしょう。一人一人のことを覚えていることは無理に等しいことだろうと思います。その中で、大切なことは何か。私は、「一貫して人間としての姿勢を示していくこと」だと感じます。一言で括ってしまうことに対し、批判はあるかもしれません、「良いことをしたときには褒める。悪いことをしたときには指導する。」(一例) という、一貫した姿勢を教職員がもち、日々、学校生活の中で真剣に児童生徒に向き合うことから始まるのではないかでしょうか。真剣に向き合うためには、児童生徒の声に耳を傾け、保護者・地域の方の話を聞き、職員が一丸となっていくことだと思います。その結果、「実践的指導力のある教員」・「得意分野をもつ個性豊かな教員」・「課題に対して適切に対応できる力量ある教員」になっていくのではないでしょうか。今後とも、佐倉の子供のために、先生方の姿勢を示して日々の地道な努力をお願いします。

佐倉市教育センターでは、これまでに各種の調査研究等を行っています。これは、現状を把握するためのものや、児童生徒の学力向上を目指した指導方法改善のためのものです。今年度の主な事業は下記に示すようなものです。

### 《平成21年度の主な事業》

#### 市民の教育に関する意識調査【2年次】

次期教育ビジョンの策定にあたり、佐倉の教育に対する市民の考え方や思い、意見を広く取り入れて佐倉のあるべき教育の姿を明らかにしていこうとするものです。

#### 佐倉学道德副読本の作成【3年次】

郷土佐倉への愛着を育み、社会に貢献できる人材を育てるために、先覚者の生き方や偉業を学ぶことを通じて、「好学進取」の気風を育てるに行おうとするものです。

#### 全国学力・学習状況調査の結果分析

全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、改善を図るために分析を行い、学習意欲の向上や授業改善に役立てていこうとするものです。

#### 佐倉市学習状況調査

学習意欲及び学習・生活習慣に関する事、並びに国語、算数・数学、英語（中のみ）の基礎学力の状況の分析を行い、生活・学習指導に役立てていこうとするものです。

最後になりましたが、一年間教育センター事業にご理解とご協力をいただきましたことに感謝申し上げますとともに、佐倉市の教育の向上・発展のために引き続き努力していく所存です。

# 学習指導の改善に向けて

「平成21年度 全国学力・学習状況調査」より

平成21年4月21日に、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。国語B、算数・数学B問題の正答率と、児童生徒質問紙調査の結果のクロス集計から明らかになった課題をふまえて、学習指導の改善に向けた視点について、述べたいと思います。

## 国語 授業の中で、児童生徒が自分の考えを発表する機会や、友だちとの間で話し合う活動を十分に取り入れることが必要である。

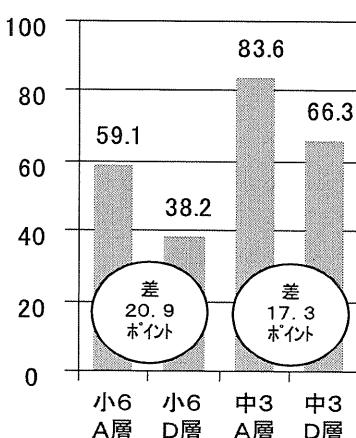
「自分の考えを発表する機会が与えられていると思うか」という質問に対し、肯定的な回答をしたA層と否定的な回答をしたD層で、正答率の差は、小6で24.5ポイント、中3で27.7ポイントである。また、「友達との間で話し合う活動をよく行っていると思うか」という質問に対しても、A層とD層の正答率の差は、小6で16.4ポイント、中3で10.4ポイントである。

国語の授業は、児童生徒の言語能力を育む重要な時間であるが、教師の一方的な説明や、一問一答式の質問が中心の授業では、思考力や表現力を身につけさせることはできない。教師が明確なねらいを持ち、的確に視点を与えながら指導することが重要である。

### 目的を明確にして資料を読む経験を積ませる

「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりすること」について、A層とD層で正答率の差は、小6で20.9ポイント、中3で17.3ポイントである。資料を読み取らせる際に目的をしっかりと理解させることは、児童生徒の読み解き向上のために重要なポイントとなることがわかる。

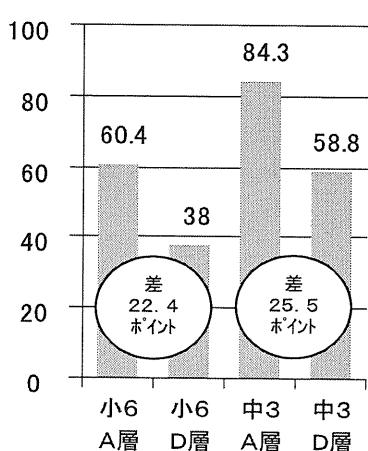
【質問】国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしているか



### 理由が分かるように気をつけて自分の考えを書かせる

「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書くこと」について、A層とD層で正答率の差は、小6で22.4ポイント、中3で25.5ポイントである。自分の考えを書く際に、その根拠を明確にする書き方をしっかりと身につけさせることは、論理的な思考を身につけさせるうえでも大変重要である。

【質問】国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いているか

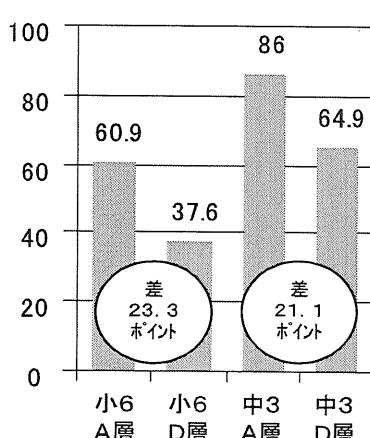


### 話の組み立てを意識して意見を発表させる

「自分の意見などを発表するとき、話の組み立てを工夫すること」について、A層とD層で正答率の差は、小6で23.3ポイント、中3で21.1ポイントである。

話の組み立てを意識した発表の仕方をしっかりと身につけさせることは、思考力を育み、学力向上のために有効であることがわかる。

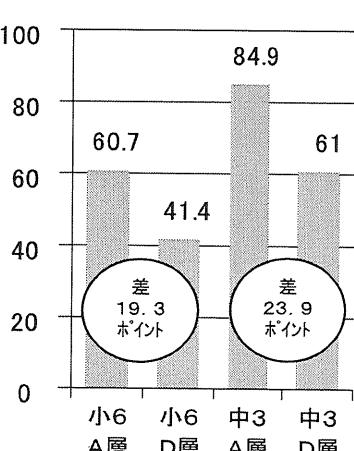
【質問】国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫しているか



### 段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら文章を読ませる

「段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読むこと」について、A層とD層で正答率の差は、小6で19.3ポイント、中3で23.9ポイントである。さまざまな種類の文章を教材にしたり、複数の資料を比較して読ませたりしながら、文章の構成をきちんと理解させることは、国語の学力を向上させるうえで大変重要である。

【質問】国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいるか



## 分析方法

児童・生徒質問紙調査で、選択肢「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」のうち、「当てはまる」と肯定的な回答をした児童・生徒をA層、「当てはまらない」と否定的な回答をした児童生徒をD層とし、それぞれ国語B、算数・数学B問題の平均正答率とのクロス集計結果を分析した。グラフの単位は、すべて(%)である。また、百分率で表された2つ以上の数値の差を示す場合、「ポイント」と表記している。

## 算数・数学

児童生徒が、あきらめずにいろいろな方法で問題を解けるような支援の方法を考え、算数・数学の授業に対する学習意欲を高めることが大切である。

「算数・数学の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えるか」という質問に対し、肯定的な回答をしたA層と否定的な回答をしたD層で、正答率の差は、小6で25.7ポイント、中3で31.9ポイントである。算数・数学の授業に対する意欲の差が、学習内容の理解にも大きな影響を与えることがわかる。

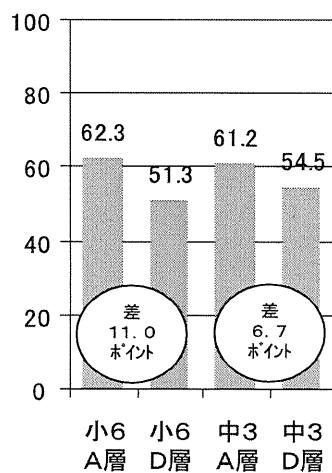
計算問題などの反復練習をする授業だけでなく、実生活における事象との関連を図ったり、児童生徒の興味関心や理解度に応じた教材教具の開発に努めたりして、算数・数学に対する学習意欲を高めるための工夫をしていくことが重要である。

### 学習内容を日常生活の中で活用しようとする意識を育てる

「学習したこと普段の生活の中で活用できないか考える」とについて、A層とD層で正答率の差は、小6で11.0ポイント、中3で6.7ポイントである。

問題を解くだけの知識ではなく、実生活の中で活用できる知識や技能を身につけさせることができ、算数・数学の学力向上にも関連している。

**【質問】**算数・数学の授業で学習したこと普段の生活の中で活用できなかいか考えるか

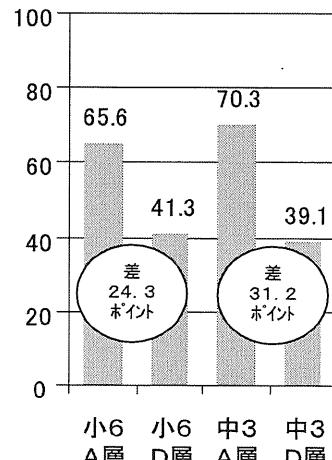


### 算数・数学の公式やきまりは、その理由や意味を理解させる

「公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにすること」について、A層とD層で正答率の差は、小6で24.3ポイント、中3で31.2ポイントである。

公式やきまりを機械的に暗記させるのではなく、その根拠や意味を考えさせることは、数学的な論理的思考を身につけさせるうえでも大変重要である。

**【質問】**算数・数学で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしているか

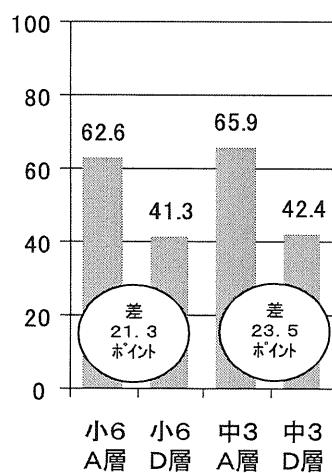


### さまざまな方法を考えて問題を解かせる

「問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えること」について、A層とD層で正答率の差は、小6で21.3ポイント、中3で23.5ポイントである。

一つの方法で問題を解けたら、もっと簡単な方法で解けないか考えさせることは、学習内容の理解を深め、数学的な思考力を育むために有効であることがわかる。

**【質問】**算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えること

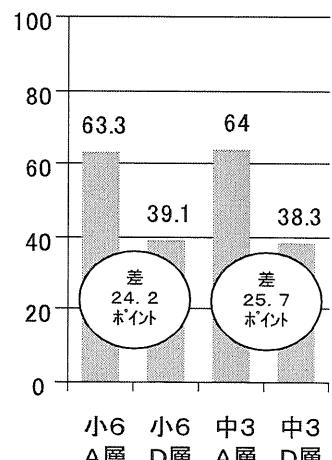


### 問題の解き方や考え方方が分かるようなノートの書き方を指導する

「問題の解き方や考え方方が分かるようにノートに書くこと」について、A層とD層で正答率の差は、小6で24.2ポイント、中3で25.7ポイントである。

問題を解くときに、思考の過程を後で振り返ることができるようなノートの書き方を指導することが、算数・数学の学力を向上させるために大変重要である。

**【質問】**算数・数学の授業で問題の解き方や考え方方が分かるようにノートに書いているか

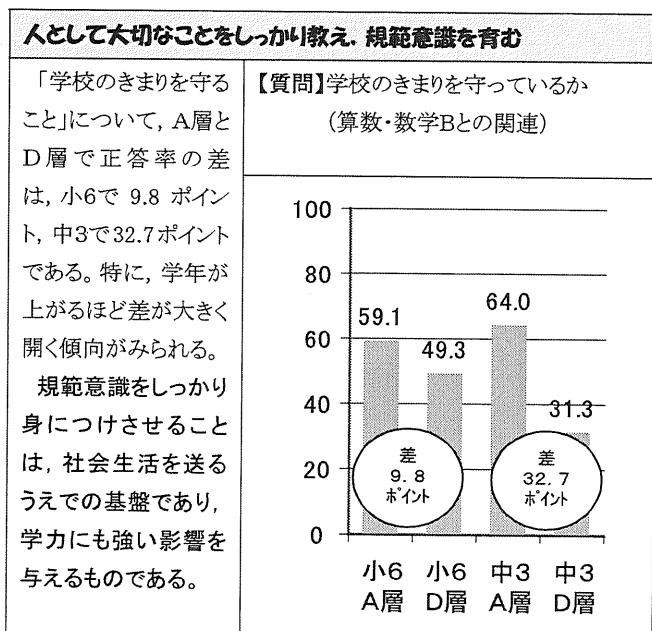
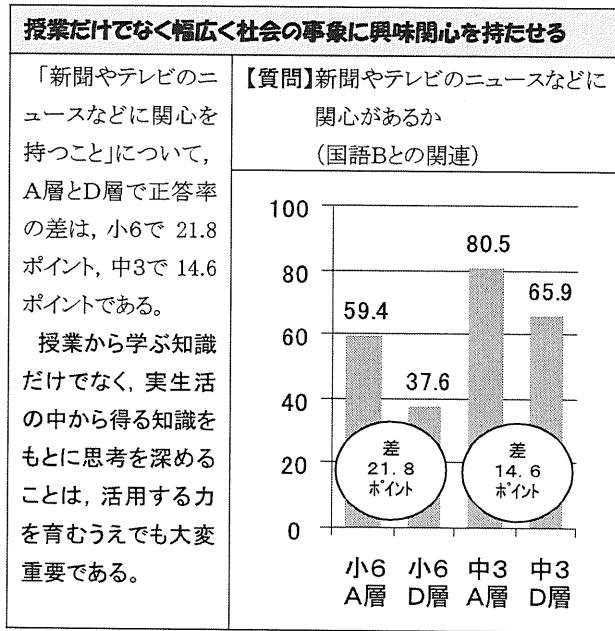
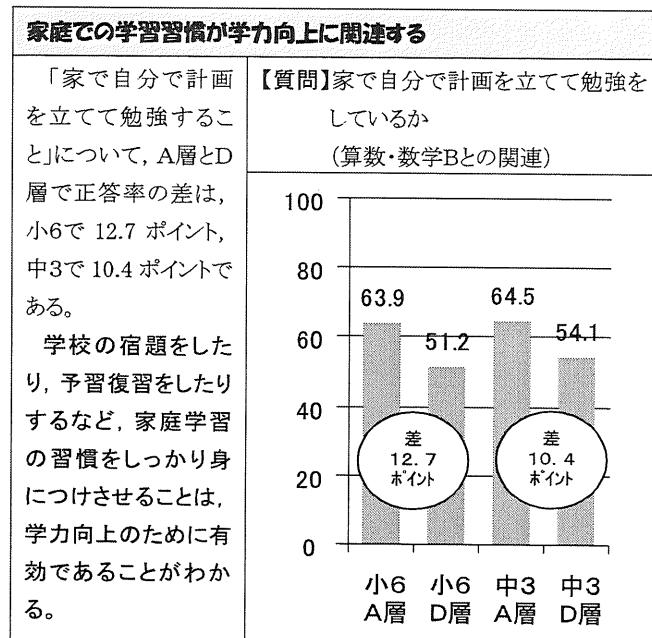
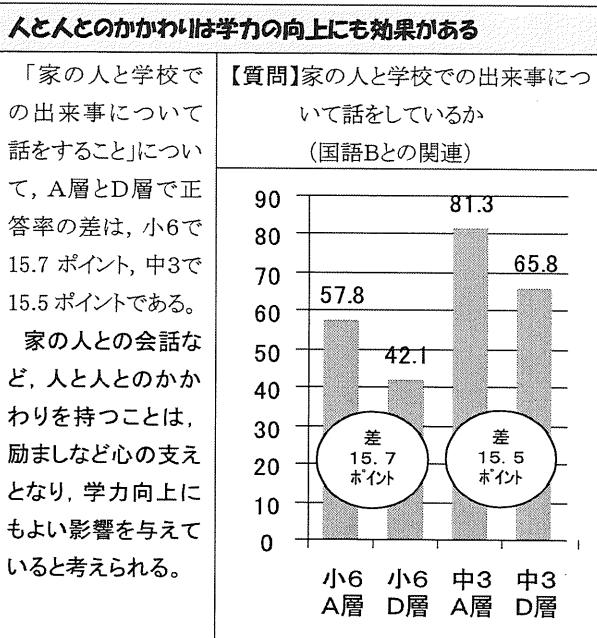


## 生活習慣等

学校の授業だけでなく、家庭での学習習慣や、生活習慣をしっかり身につけさせることが、学力向上にも大きな影響を与える。

「学校の授業以外で全く勉強をしない」「一日に長時間(4時間以上)テレビを見たりテレビゲームをしたりする」と答えた児童生徒の正答率は、家庭学習の習慣や、適切な生活習慣を身につけている児童生徒と比較して低い。佐倉市教育センターが実施した「道徳意識調査」や「健康・体力に関する調査」の結果からも、道徳的な規範意識や生活習慣が学力に与える影響は、明らかになっている。

学校では、生徒指導の機能を生かして自己決定の場面を設定したり、学習の理解度を把握して適切な支援をしたりして、「わかる授業」を目指した指導法の工夫改善を図る必要がある。教材研究や教具の開発、学習問題の立て方や発問の仕方など、教師の授業力向上を図るとともに、校内の生徒指導体制の確立や家庭との連携を推進し、学校全体で組織的に児童生徒を見守り育していくことが望まれる。



新学習指導要領の完全実施に向けて、各学校においては、年間指導計画の見直しをはじめ、指導法の工夫改善に積極的に取り組んでいることと思います。児童生徒の学力向上を目指すためには、つまずきが目立った問題の誤答分析も大切ですが、児童生徒の意識の現状を把握することも必要だと考えます。児童生徒の学習意欲を高めるために、どのような手立てを講じるべきか、研修する機会も設けていただければ幸いです。

(西村 隆徳)

# "さくら"学びの窓

一人一人が自分の考えをもち、活動できる子どもの育成  
～理科・生活科の指導の充実を通して～

佐倉市立王子台小学校

王子台小学校では、平成17年度より、特色ある理科教育の推進、基礎学力の向上をテーマに理科・生活科の研究を進めています。「子どもたちの感性をゆさぶる導入の工夫」、「子どもたちの感性をゆさぶる指導法の改善」と研究を重ね、昨年度より上記の研究主題を掲げて継続した研究を行っています。思考力、判断力や表現力の育成という「今日的課題」も視野に入れて指導の充実をめざしています。

## 自分の考え方を持ち、活動できる子ども

理科・生活科の授業では

自分の考え方を持ち、意欲的に学習する（理科）  
思いや願いを持ち、意欲的に活動する（生活科）

科学的な見方や考え方方が深まる（理科）  
科学的なものを見る素地ができる（生活科）

仮説1

教師の手立てとして

仮説2

意欲の向上を図る指導法の工夫・改善（理科）  
身近なものや自然に触れる活動や体験の重視  
(生活科)

表現力を高める支援（理科）  
自分らしく表現できる場の設定、気付きの質を  
高める工夫（生活科）

### 具体的な手立て

#### 【理科】

- 問題解決的な学習の展開
- 教材・教具の工夫
- 児童のよさを伸ばす指導と評価の工夫

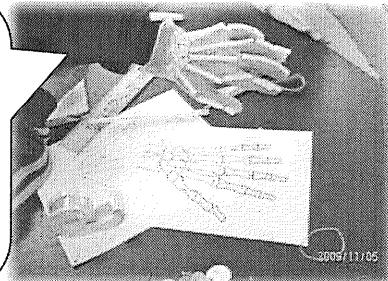
#### 【生活科】

- 地域や児童の実態に応じた素材の開発
- 思いや願いが生まれるような場の設定



豊かな自然の中で、生き物探しをする活動を通じて、思いや願いをくらませました。

骨のつくりを予想してビニル手袋にストローを貼り、骨格図と比べました。



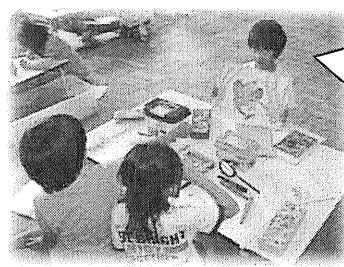
### 具体的な手立て

#### 【理科】

- 予想や実験計画を立てる場面での支援
- 観察・実験の結果を整理する場面での支援
- 学び合いの場での支援
- 考査で観察・実験結果からわかったことをまとめられるようにする支援

#### 【生活科】

- 思いや願いを自分らしく表現する場の設定
- 気付きの質を高めるための工夫
- 児童の変容がわかるような振り返りカードの活用



自分で決めた表現方法でまとめ、友達に見てもらいました。



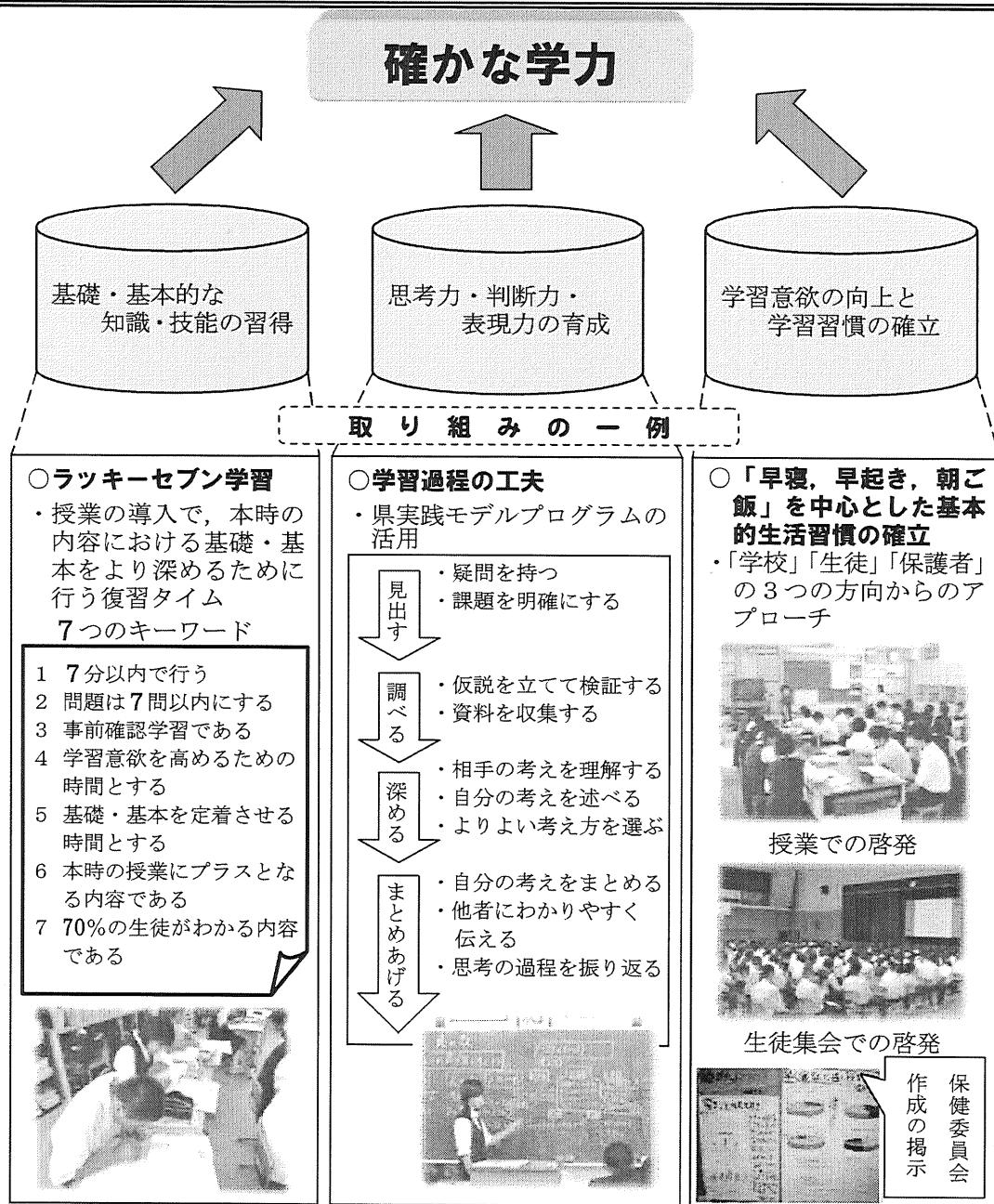
発表ボードを活用することで、実験の結果をわかりやすく伝えることができました。

## 思考力・判断力・表現力の育成を図る学習指導のあり方 ～身につけた知識・技能を活用する学習活動を通して～

佐倉市立佐倉中学校

佐倉中学校では、平成20年度から22年度まで文部科学省より「学力向上実践研究推進事業」の指定を受け、今年度公開研究会を開催しました。

「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学習意欲の向上と学習習慣の確立」という3つの柱を立て、確かな学力を育んでいくことをめざしています。



### 編集後記

昨年の秋にはたくさんの学校で公開研究会が開かれ、参観者に日々の研究の成果を広く公開していただきました。全ての学校の紹介をしたいところですが、紙面の都合で今回は王子台小学校と佐倉中学校の研究概要のみを紹介させていただきました。指導案や研究紀要は、教育センターでも保管しております。

教育センターで保管している書籍、学習指導案、研究紀要等のデータベース化を進めています。「教科名」や「佐倉」等の言葉で資料の検索ができるよう準備をしています。実用化の段階になりましたら、ぜひご活用ください。